



子供に第三の居場所を

校長 長谷川 美栄子

昨年4月に発足した「こども家庭庁」では、児童虐待や貧困、少子化問題等、子供に関するさまざまな課題に対する取組が行われていて、その1つに「こどもの居場所づくり」という取組があります。子供は、家庭を基盤として地域や学校等様々な場所において、安全・安心な環境の下、様々な大人や同年齢・異年齢の子供同士との関わりの中で成長する存在ですが、地域のつながりが薄れたり少子化が進んだりしたことで、子供・若者が地域コミュニティの中で育つことが難しくなっているということが背景にあります。行政では、子供が長く過ごす家庭や学校以外の第三の居場所として、「放課後児童クラブ」「児童館」「子ども食堂」「学習支援の場」等の様々な居場所をより充実させていくと言っています。一方、行政が関与していない塾や習い事、近所の親戚の家等も、子供にとって安心できて居心地の良い場所であれば、第三の居場所となり得ます。大切なのは、こうした多様な場が子供の居場所になるかどうかは、子供本人がそこを居場所と感じるかどうかによるということです。



本校の子供たちにおいては、上記のような放課後自力で通える施設等がないため、第三の居場所を得るのが難しい状況です。そうであれば、自ら出向いてみてはどうでしょうか。送り迎えといった保護者の負担は多少ありますが、いろいろな団体が主催する体験活動に参加するのも1つの方法です。近隣では、八雲町教育委員会が主催するワークショップやネイパル森で行われるアクティビティ等、多様な体験活動が行われています。こういった体験活動では、安価な参加費でいろいろな体験ができ、講師や指導員が丁寧に教えてくれます。(冬場開催されるスキーやスノーボードの講習会等は、小学生のうちに受講しておくことと生涯スポーツとして大人になっても楽しむことができます。学校での授業は3回しかありませんが、もっと上手になりたいのであれば受講をお勧めします。)また、スポーツ少年団に加入することで、第三の居場所が見つかるかもしれません。(本校では、現在毎週水曜日の18時から野球少年団に体育館を開放しています。興味がある人は一度見学してみても！必要であれば、先日大谷翔平選手から届いたグローブを貸し出します。)誰とも交流せず、自分一人で居られる場を得たいのであれば、町立図書館で好きな本や図鑑等を眺めるのもよいでしょう。(図書館に行ってみると、読書だけでなく、モノづくりの本やイラスト等眺めるだけでも楽しい本がいろいろあって没頭できます。)親自身も、子供の一緒にいろいろな体験をすることで、家庭や職場以外の自分の居場所を見つけることができるかもしれません。

結局のところ、第三の居場所を見出すには、主体的に行動し自身で感じる事が大切です。

2月行事予定

2 金	スキー遠足	12 月	振替休日
6 火	新1年1日入学	14 水	移動図書
7 水	5時間授業	15 木	小小連携 (meet)
8 木	なかよし学習③ 道徳遠隔授業 (11:10~)	16 金	児童会⑪
9 金	スキー遠足予備日	22 木	参観日・学級懇談・6送会
11 日	建国記念の日	23 金	天皇誕生日
		28 水	5時間授業

本をたくさん読んで世界を広げよう（1・2年生）

1・2年生教室では、移動図書で借りた紙芝居を読んでいます。毎回4冊程度、紙芝居を借りています。先日の移動図書では、何と9冊の紙芝居を借りました。「この紙芝居読んでください」「前読んだけどもう一度読んでください」「これおもしろそう」と、子供たちがたくさん紙芝居を選びました。

紙芝居を読んでいる時、子供たちは集中してお話の世界に入っています。時には笑ったり悲しんだりしながら、様々な想像を働かせて聞いています。今後も紙芝居を通して、子供たちが「本を読むことは楽しい」と感じ、たくさん本に親しめる環境をつくっていきたいと思います。

ぜひ、山越読書 DAY の日に一緒に本を読んだり学校でどんな本を読んでいるのか話題に出したりしながら、ご家庭でも読書に親しめるよう背中を押していただければと思います。



合同スキー学習（5・6年生）

1月18日・25日に野田生小学校と合同でのスキー学習を行いました。安全に滑るための基本的な技術を身に付けている上級チームメンバーは、コース取りの自由度が高くなり、スキーの楽しさをより実感しているようでした。中級チームメンバーは、カーブを安定させる練習を重ね、八の字滑走で細かく曲がることができるようになってきました。また、リフトに乗る時にはチーム内でペアを変えるなど、野田生小学校の子供たちと交流を深める様子も見られました。2月2日（金）のスキー遠足も一緒なので、また会えるのを楽しみにしているようです。

さて、スキー学習で楽しく滑り、全身を使って運動している子供たちですが、普段の様子を見ていると運動量が減っている様子が見られます。二計測後の子供たち自身の振り返りでも、「運動不足がみ」「もっと運動をする」という声が聞かれました。先日の保健だよりもでも触れていましたが、楽しくできる運動を見つけることが運動量を増やす近道です。また、健康のためには食生活の把握も大切です。食事の記録をとると、お菓子の食べ過ぎに気づけます。子供たちの健康のために、ご家庭でも運動と食事について話題にしていただければ幸いです。



図工・すごろく作り（特別支援学級）

図工の学習で「わくわくすごろく」を作りました。一人一人自分で内容を考えて、オリジナルの楽しいすごろくを作ることができました。千弦さんは「黒板にハートマークを書きましょう」、優衣奈さんは「お友達にだいすきといましょう」など、素敵な言葉も書かれています。出来上がった後は、1・2年生と一緒に作ったすごろくをやって楽しみました。



優衣奈さん



千弦さん

学校ブックフェスティバル

26日（金）に東野小学校で学校ブックフェスティバルが行われました。

この事業は、子供たちの読書への興味・関心を高めるとともに図書館の利用者数を増やすことを目的に、八雲町教育委員会が実施したものです。

この日は、山越・東野・野田生の3小学校の子供たちが集まり、低学年と高学年に分かれて読み聞かせを聞いた後、道立図書館所蔵の500冊の本から借りる本を選んだり友達と一緒にしかけ絵本を眺めたりして楽しみました。

子供たちは、CSの体験活動やスキー学習などで頻りに顔を合わせていることもあり、他校の友達と自然に会話しながら一緒に本を選ぶなど、終始リラックスした様子で過ごしていました。

